



目 次

●開催主旨・開催概要	4
●プログラム	5
●講演者・パネリストプロフィール	6
●講演概要	
・『ICFの基本と医療面への活用』	8
講師：大川 弥生	
社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会委員長	
独立行政法人国立長寿医療研究センター生活機能賦活研究部部长	
・『全人的医療に向けてのICF活用と期待』	20
講師：野中 博	
社団法人東京都医師会会長	
・『介護の面からICFの活用を考える ～医療機関と介護サービスとの連携を含めて～』	26
講師：舟田 伸司	
社団法人日本介護福祉士会 常任理事	
・『診療情報管理の面からICF活用を考える』	38
講師：高橋 勇二	
浜松市リハビリテーション病院 副院長	
・『患者から医療への期待をICFから考える』	40
講師：大日方 邦子	
株式会社電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント	
●ICFとは	42



開催主旨

ICF（国際生活機能分類）は、2001年5月にWHO総会で採択されて以来、普及を促進するための研究開発が行われてきました。2006年には、WHO-FIC（国際統計分類）ネットワーク年次会合チュニス会議において、ICFを検討するFDRG（生活機能分類グループ）が設置されました。これを受けて、WHOの専門家会議において普及啓発、教育など活発な議論がなされており、目下、世界中の関係者から注目を集めています。我が国においても「疾病」と「生活機能」両面からの評価を可能とする共通言語として、その普及に向けて介護、リハビリテーション、医療連携等における具体的な研究や、活用事例の報告が行われてきました。

今回、こうした動向をふまえICF（国際生活機能分類）の実用化にむけて、第3回ICFシンポジウムを開催することといたしました。本シンポジウムにおいて、まずは主に医療現場におけるICFの活用のための課題と対策を明確化することにより、ICFの実用化を推し進める契機となることを期待しております。

開催概要

- 開催日時 : 平成24年12月13日(木) 12:00開場 13:00開始 17:00閉会
- 会場 : 日本科学未来館 7F みらいCANホール
- 費用 : 参加無料
- 主催 : 厚生労働省、日本診療情報管理学会
- 協賛 : 一般財団法人 厚生労働統計協会
- 後援 : 社団法人日本医師会 一般社団法人日本病院会 公益社団法人日本看護協会
ソーシャルケアサービス従事者研究協議会 公益社団法人日本医療社会福祉協会
一般社団法人日本介護支援専門員協会 社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人日本言語聴覚士協会 一般社団法人日本作業療法士協会
社団法人日本社会福祉教育学校連盟 社団法人日本社会福祉士会
社団法人日本社会福祉士養成校協会 公益社団法人日本障害者リハビリテーション協会
社団法人日本精神保健福祉士協会 特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会
日本保健医療福祉連携教育学会 公益社団法人日本理学療法士協会



プログラム

司会進行 ● 及川 恵美子 厚生労働省大臣官房統計情報部企画課国際分類情報管理室国際分類分析官

12:00 **開 場**

13:00-13:30 **開会挨拶**

伊澤 章 厚生労働省大臣官房統計情報部長

大井 利夫 一般社団法人日本病院会日本診療情報管理学会理事長

世界保健機関（WHO）からのビデオレター

ネナド・コスタンチェック

世界保健機関（WHO）分類・ターミノロジー・標準 技官

13:30-14:20 **ICFの基本と医療面への活用**

大川 弥生 社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会委員長

（独立行政法人国立長寿医療研究センター 生活機能賦活研究部部長）

14:20-14:40 **休 憩**

（ 座 長 ： 谷 伸悦 厚生労働省大臣官房統計情報部企画課国際分類情報管理室長 ）

14:40-16:30 **全人的医療に向けてのICF活用と期待**

野中 博 社団法人東京都医師会長

介護の面からICFの活用を考える～医療機関における、医療機関と介護サービスとの連携を含めて～

舟田 伸司 社団法人日本介護福祉士会 常任理事

診療情報管理学の面からICF活用を考える

高橋 勇二 浜松市リハビリテーション病院 副院長

患者から医療への期待をICFから考える

大日方 邦子 株式会社電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント

16:30-16:50 **質疑応答**

16:50-17:00 **閉会挨拶**

谷 伸悦 厚生労働省大臣官房統計情報部企画課国際分類情報管理室長



講演者等プロフィール



大川 弥生 (おおかわ・やよい)

独立行政法人国立長寿医療研究センター生活機能賦活研究部部長

.....
医師、医学博士。

1982年より東京大学医学部にてリハビリテーション（リハ）医学を研修。以来、生活機能・障害構造論とその臨床実践応用、

特に生活機能向上プログラム・システムづくりの研究に携わる。

1997年より現職。ICFには前身のICIDH（国際障害分類、WHO, 1980）のフィールドトライアルから関与し、ICFへの改定作業に携わり、採択後は大規模生活機能実態調査を多数実施。



野中 博 (のなか・ひろし)

社団法人 東京都医師会 会長

.....
1972年東京医科大学卒業後、同年同大学内科学教室入局。

1985年野中医院を開業、1989年（社）浅草医師会長、

1990年医療法人社団博腎会野中医院開設。

2003年（社）東京都医師会副会長を務め、

翌年2004年（社）日本医師会常任理事を務める。

主に介護保険を担当し、社会保障審議会介護保険委員会と介護給付費分科会委員にて介護保険制度の改定に参加。

2008年社会保障国民会議サービス保障(医療・介護・福祉)分科会委員。

2011年より（社）東京都医師会長。2012年（社）日本医師会理事。



舟田 伸司 (ふなだ・しんじ)

日本介護福祉士会 常任理事

.....
1970年生まれ、富山県黒部市出身。

1990年黒部市介護老人保健施設カリエール開設と同時に入職。

介護主査として勤務しながら県内各所で介護講習、講演等も行っている。

「介護の現場は宝の山。自己満足では終わらせずに介護の楽しさを伝えたい」

20年間抱き続けた介護への熱い思いと「思考する」介護を信条に活動中。

日本介護福祉士会常任理事・富山県介護福祉士会副会長。

介護福祉士、介護支援専門員、介護技術講習主任指導者、保育士、

幼稚園教員2級など当該領域の資格多数。



高橋 勇二 (たかはし・ゆうじ)

浜松市リハビリテーション病院副院長

.....
1983 年新潟大学医学部卒業、医学博士。整形外科、手の外科末梢神経専攻。
1994 年聖隷浜松病院手の外科マイクロサージャリーセンター。
2005 年リハビリテーション科へ転向。
2009 年浜松市リハビリテーション病院。2011 年から現職。
日本整形外科学会専門医・指導医、日本リハビリテーション医学会専門医・指導責任者。
日本運動器科学会評議員、日本診療情報管理学会評議員。
2009 年から日本病院会医師事務作業補助者コース小委員会委員、
2010 年から日本病院会診療情報管理士通信教育専門課程小委員会委員。



大日方 邦子 (おびなた・くにこ)

株式会社 電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント
冬季パラリンピックアルペンスキー金メダリスト

.....
1996 年中央大学法学部卒業後、NHK に教育番組ディレクターとして入局、
2007 年より電通パブリックリレーションズ勤務。
3 歳のとき交通事故により右足を切断、左足にも重度の障害を負う。
当初は水泳に力を入れていたが、高校 2 年生のときにチェアスキーを始める。
冬季パラリンピックにリレハンメルからバンクーバーまで 5 大会連続出場し、
アルペンスキー競技で合計 10 個のメダル (金 2、銀 3、銅 5) を獲得。
冬季パラリンピックにおける日本人初の金メダリスト (1998 年)。2010 年、
日本代表チームからの引退を表明。
以後、国内限定で競技活動を続行、アスリートとして挑戦を続けながら、
後進の育成を目指している。
電通 P R 社員として、スポーツを取り巻く社会環境の改善に取り組む他、
「誰もが安心して生きられる社会」を目指し、ユニバーサルデザインの普及
にむけた活動に従事している。